

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101391		
法人名	有限会社 メディックス古沢		
事業所名	グループホーム 野の花		
所在地	松江市大庭町1311-1 ユニット名(1)		
自己評価作成日	H22年2月8日	評価結果市町村受理日	平成22年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://lllp://kouinyou-c.tukusni=shimane.or.jp/kajiosin/infomationPublic.do?LCD=3270101391&amp;SC">http://lllp://kouinyou-c.tukusni=shimane.or.jp/kajiosin/infomationPublic.do?LCD=3270101391&amp;SC</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成22年2月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

野の花 平成22年度事業計画 * 事故防止(転倒、食中毒等) * 利用者のニーズをつかむ (スタッフ間の連携を徹底する)→報告・連絡・相談
●サービス提供記録の開示を求められれば、それに応じます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域との交流を積極的に行っているホームである。ホーム内の地域交流室は出入り口が2ヶ所設けられ地域の人がいつでも利用できるように工夫されていて、自治会の集まりや勉強会などに使われている。利用者の安全性と身体拘束の在り方をホーム全体で議論しながら取り組んでいる。利用者は、季節の行事や外出、園児との交流などを楽しんだり、干し柿作りをするなど家庭的な日常生活を送っている。職員は理念をもとに利用者主体の支援を行うことで学ぶことが多く向上心を持って日々ケアに取り組んでいる。
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々実践できるよう、ミーティング等で理念を確認し、また、グループ討議を行った。	理念について職員が3チームに分かれて討議し、理念を活かした実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの園児との交流を行っている。	散歩時に花をもらったり、ホームだより(地域版)を配布したり、近隣高齢者と共に勉強会を行うなど交流に努めている。今年度は新たに園児と桜餅作りを行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	イベント(そうめん流し、民謡のサークル)への招待をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に推進会議を行い、意見交換などもしている。外部評価についても会議に取り入れ、アドバイスを頂き、サービス向上に活かしている。	家族アンケートの結果や、外部評価結果などを報告し意見交換している。家族会のことや避難訓練などの意見が出され改善に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不審なこと、分からない事は介護保険課などのアドバイスも頂き、知識を習得し、サービス向上に取り組んでいる。	介護保健課の方に分からない事を聞ける関係ができています。電話などでアドバイスを受けることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全第一に考え、安全が確保できる時間帯には鍵をかけない支援ができています。また、身体拘束についての勉強会を行っている。	身体拘束についての勉強会を行う中でいくつかの気づきがあり、寝衣に着替えるなどできることはすぐに取り組んでいる。リスクに対しては家族に説明し同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会参加や苑での勉強会などを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解を事業所全体で学び、活用できるように対処している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、家族の理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情処理担当を設けている。利用者も推進会議に出席し、思いを運営に反映させている。また、家族アンケートをとったり、面会を通し家族と積極的に関わり、意見を聞いている。	家族へは、便りに利用者の様子や担当職員のコメントを載せ日頃の生活を知らせている。家族アンケートを実施し、家族の思いや要望を引き出すよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で出た要望を全体会議で話し合っている。	会議では意見が出しやすい。転倒について、見ているようで見ていない事もあると気づき、改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等に公平に参加できるように配慮している。環境面では、横になって休める休憩室を設けている。また、親睦会も開催している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。研修等の受講が受けられるようにしている。受講後は復命研修を行っている。また、講師を招いての研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「七色の会」を発足し、交流を深めている。他の事業所との交換研修を行い、情報交換もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されるまでに必ず出向して面接をし、本人自身から気持ちをしっかりと聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談は責任者で対応している。不在時は、職員が聞きとりをし、責任者の名刺を一緒に渡している。信頼関係を築くように努力し、電話での問い合わせも直接会って話し合えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階でゆっくりと話しを聞き、必要としている支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にしたり、本人より学んだりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡をしたり、面会時などを利用し、関係を築く努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟の面会や知人の面会があり、馴染みの関係が途切れないように支援している。	今年は新型インフルエンザのため取り組みに苦労したところがあったが、友人や家族など身近な人との関係を大事にした支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聴いたり、相談にのったり、みんなで楽しく過ごせるように職員がパイプ役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約が終了した時、面会に行ったり、家族のもとに電話をしたりして関わりを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を取り入れ、職員の中に必ず一人はこころやすい関係を作り、思いの把握に心掛けている。また、声ノートに記録をし、意向に添うように努めている。家族にも伝え、協力してもらっている。	夜間でも、「温かいお茶がいいわ」などふっと言われた声を記録し、統一したケアを行っている。自分の洗濯物は自分で干したいと希望される方には意向に添う支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時には本人・家族関係者から生活歴、生活環境等を聞いている。また、その都度、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の一日の流れを把握、理解し、状況を職員全体で共有している。持てる力を見出すことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思い、意見も考慮し、各ユニットで会議を開いている。担当者とも意見交換し、反映させている。	本人や家族の思いを把握し計画を立てている。担当職員が中心になり声ノートの情報や話し合いをし、月末にモニタリングをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子は個別にファイルし、健康チェック表、引き継ぎノート、声ノートに記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方からの家族の面会等は宿泊できる設備を有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて警察・民生委員・ボランティアと協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を築きながら、協力医療機関から訪問診療に来てもらうケースもある。	かかりつけ医や以前からの主治医による安心した受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の契約をしている訪問看護ステーションとの連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員も関わり、主治医からの説明を聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の同意書を作成し、事業所の最大のケアについて説明している。重度化の場合は家族と話し合いを重ね医療機関と密に連携を図っている。	同意書を作成し家族に説明している。利用者、家族から希望があり、医療・介護体制が整っている場合には対応したいと考え勉強会を計画している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が応急手当普及員の資格をとり、定期的に講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大庭地区防災隊に加入し、お互いに協力できる体制を整えている。 また、独自で備蓄もしている。	地区の介護施設で助け合うように地区防災隊に加入している。近隣の若い方のいる家には協力をお願いしている。備蓄は準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、排泄、入浴等のプライバシー保護に努めている。	トイレ介助時は他の方に気づかれないように配慮したり、入浴介助では利用者のペースを守るなど心がけている。間違っても否定をしないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けを行い、自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	苑内の理美容室での対応で喜ばれている。開苑当初からの理容師で馴染みの理容師となっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作り、皮むき等様々な形で関わってもらい、食事を楽しめるように支援している。利用者が育てた野菜も利用している。検食者1名は、利用者と食べている。また、メニューを入居者の方に書いてもらい掲示している。	利用者の力を活かしながら盛り付けや片付けなど一緒に行っている。昼食は職員一名が利用者と一緒に食べ、おやつ作りや毎月弁当の日を設けるなど共に楽しめる場面作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、職員が情報を共有している。栄養士にアドバイスをもらい、献立を立てている。各自の好物を把握し、美味しい食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの意識づけに努め、声掛けを行っている。介助の必要な方には職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせて対応している。	紙パンツを上手に使うことを勉強会で話し合い、パットの大きさや容量を考慮し、利用者が快適に過ごせるような対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りヨーグルトを提供したり、水分摂取を促し、予防に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調も考慮しながら支援している。	大体一日ごとの入浴になっている。希望があれば毎日でも入れるが、今の時期は特に希望がない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝を希望されれば、(介助の必要な方)その都度対応している。夜は各々に休みたい時に居室に帰られ、休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成しており、職員が内容の把握に努めている。手渡し、服薬の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	10時のお茶は飲みたい物を聞いて希望された物を提供している。また、得意分野で一人ひとりの力が発揮してもらえるよう、出来るような仕事をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日には日光浴を兼ねて散歩の声掛けをしている。希望があった場合は家族に話をし希望が叶えられるように支援している。初詣、水郷祭等、季節に合わせて外出も支援している。	日常的に散歩や買い物に出かけたり、小グループで水郷祭や螢狩り、そうめん流し、紅葉狩りなど季節に合わせて出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に対応している。自分の財布からお金を払われる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話で話をされる。年賀状や手紙のやり取りも個別に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は明るく、テーブルには季節の花を飾っている。厨房より四季折々の食材を使った料理が出され、畳のコーナーにはこたつもあり、心地良く過ごせるように工夫している。	食堂の周囲にベンチがありそこで庭を眺めたり、和室で過ごしたり、季節に応じて花を生けたり、ゆったりとした空間作りをしている。トイレの位置の印を目の高さにする工夫がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが設置されたり、畳コーナーを利用されたり、個々に過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持って来てもらう様に、家族に説明をし、協力してもらっている。ご位牌や遺影の持ち込みを希望される方には居室に置いていただいている。	位牌や遺影が置かれている居室や、家族写真などが飾られている居室があり、利用者に合わせて環境作りをしている。キーボードがあり静かな音が流れていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下、階段に手すりを設置している。エレベーターの設置(年4回のメンテナンス)利用者の安全、使いやすさに配慮している。また、居室の名前札、衣類などの記名で混乱を起こさないように工夫している。		